

刊行に寄せて



文部科学大臣

永岡桂子

新型コロナウイルス感染症は、この3年間、学校における教育活動にも大きな影響を与えてきましたが、現在は家庭や学校などをはじめ、社会のあらゆる場面で日常が取り戻されつつあります。

この間、私たちは社会及び経済活動上の様々な困難に直面しましたが、デジタル化を加速させながら生活様式や学びの在り方を変容させ、新たな時代の社会に適応してまいりました。

こうした時代にあって、予測できない未来に向かって自ら社会を創り出していく「持続可能な社会の創り手」を育み、人の英知や創造力を最大限引き出すことにより、国民の皆様の人生を幸福で豊かなものにする文部科学行政の役割は極めて重要なものです。引き続き、現場の声にしっかりと耳を傾け、直面する課題に果敢に取り組んでまいります。

令和4年度文部科学白書では、特集として二つのテーマを取り上げました。

特集1では、令和4年12月に中央教育審議会に取りまとめられた「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について（答申）」を取り上げました。本答申において示された「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成、教員免許更新制の発展的解消及び教員研修の高度化、教員養成大学・学部、教職大学院の高度化・機能強化、教師を支える環境整備について、各種取組等を紹介しています。

特集2では、「未来をけん引する人材の育成～大学・高等専門学校の機能強化と学び直し促進」と題し、令和4年5月に取りまとめられた教育未来創造会議第一次提言においても示された、成長分野をけん引する大学・高等専門学校の機能強化や、学び直し（リカレント教育）を促進するための文部科学省における取組について紹介しています。

文部科学行政の推進のためには、国民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。本白書が一人でも多くの方の目に届き、幅広く活用され、皆様の御理解を深めていただく一助となれば幸いです。